

新エネルギーを利用した「分散型電源」の最新技術が大阪に集結！ ～大規模停電を起こす一極集中型から、分散型エネルギー社会へのシフト～

第6回 [関西] スマートエネルギーWeek 会期:2018年9月26日(水)～28日(金) 会場:インテックス大阪

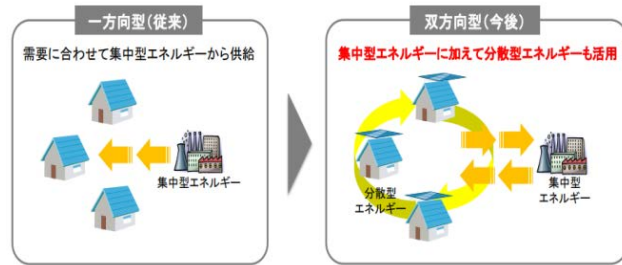
リード エグジビション ジャパン株式会社(代表取締役社長:石積 忠夫)は、2018年9月26日(水)からインテックス大阪にて「第6回 [関西]スマートエネルギーWeek」を開催します。本展には分散型電源を構成する、太陽光・風力・バイオマス・燃料電池といった発電技術や、その電力を蓄える蓄電池、分散した電力をネットワーク化して効率よく使うためのグリッド技術など、360社の製品が一堂に集まります。また、同会場内では、経済産業省 近畿経済産業局主催の「防災×エネルギー」をテーマにしたセミナーも開催されます。

◆ 北海道の大規模停電にみる「一極集中型」の脆弱性

9月6日、北海道で起きた地震によって、国内初の全域停電「ブラックアウト」が起きました。この大規模停電は、火力発電所のトラブルによって需給バランスが崩れ、他の発電所も次々と停止した結果引き起こったもので、改めて従来から続く「一極集中型」電力システムの脆弱性が浮き彫りになりました。一方、このようなリスクを回避する方法として期待が寄せられているのが「分散型電源」です。

◆ 太陽光発電の普及に伴い、広がる「分散型電源」

分散型電源は、地域で必要な電力を小規模な装置で発電する供給モデルです。地産地消のため、送電ロスが少なく、また非常時においても自立電力供給が可能といったメリットがあります。近年では、持続可能なエネルギー社会への取り組みとして太陽光発電や風力発電の導入が加速しており、これら新エネルギーを利用した分散型電源が世界的な規模で広がりを見せています。



出典:資源エネルギー庁

国内における代表格は太陽光発電です。これまで売電目的で普及した太陽光発電は、今後経済的なメリットから蓄電池と合わせて利用する「自家消費」にシフトしていくといわれています。また、その動向は自家消費に留まらず、分散した電力をIoT技術を用いて統合管理し、あたかも一つの発電所のように機能させる「VPP(仮想発電所)」の実現に発展しています。このように、電力システムはいま大きな転換期を迎えています。

本展は、その最新動向を示す太陽光発電システムや、蓄電池、IoT技術が一堂に集まる西日本最大*の展示会です。ぜひご取材にお越しください。(* 同種の展示会との出展社数および製品展示面積の比較)

取材のご登録はこちら >> <http://www.wsew.jp/kansai/shuzai/>

➤ 360社の中から、出展製品を一部ご紹介

Panasonic 創蓄連携システム



平常時も停電時も、太陽光発電の電気をムダなく活用

社名: (株)novis

製品名: パナソニック創蓄連携システム

創蓄連携システムは、太陽光発電用と蓄電池用、2つのパワーコンディショナを一体化し、効率よく電気を活用できます。太陽光発電の電気を蓄電池に直流で直接充電するため、交流への変換ロスが少なく電気を有効に使えます。昼間は太陽光の電気でまかなえ、蓄電池にもしっかり充電できるので、夜間に電気を使っても翌日の昼間に太陽光で再び充電。停電が長引いても安心!

報道関係者各位 <取材のご案内>



消費電力に合わせて自動制御！効率的な自家消費を実現

社名：(株)ラプラス・システム

製品名：自家消費型 太陽光発電向け 自動出力制御システム

発電電力量が消費電力量を上回らないようにパソコンを制御。消費電力に応じて発電電力を適切に制御し、逆潮流を防ぐことで発電電力を最大化します。また、急激に消費電力が減少する時間帯には、あらかじめ他の時間帯よりも発電電力量を抑えるように設定することで逆潮流を防止し、効率的な自家消費発電につなげます。

太陽光発電は、つかって、ためて、はしる時代へ

社名：ニチコン(株)

製品名：トライブリッド蓄電システム

家庭で電気をためられる「蓄電」システム。太陽光発電でつくった電気をためることで、夜間や非常時にも自家製の電気が使えます。新しく登場した「トライブリッド蓄電システム™」は、自宅の電気はもちろん、新たに電気自動車やPHVとも組み合わせられるようになりました。太陽光からうまれた電気を使うことで、電気自動車はソーラーカーとして生まれ変わります。



Smart Energy Management System with V2G
by Drive Electric

クルマに貯めた電気を電力網に繋げる！ V2G (Vehicle to Grid)システム

社名：岡谷鋼機(株)

製品名：Crowd Charge

「Crowd Charge」は、AIでEV車の充電タイミングをコントロールし、EV車のバッテリーの蓄電機能を有効活用する技術で、V1G (スマートチャージ)、V2H (Vehicle-to-Home)、V2G (Vehicle-to-Grid)などへの幅広い活用が期待され、現在英国内で行われているEV車700台を使った世界最大規模の実証実験「Electric Nationプロジェクト」でも使用されています。



各地に分散した電力をIoTでまとめて管理する「仮想発電所」

社名：NEC

製品名：蓄電池やEVを活用するVPPサービスプラットフォーム

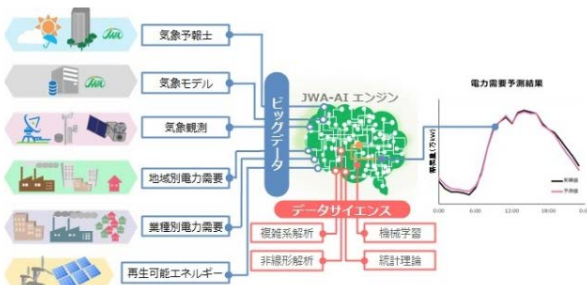
家庭で電気をためられる「蓄電」システム。太陽光発電でつくった電気をためることで、夜間や非常時にも自家製の電気が使えます。新しく登場した「トライブリッド蓄電システム™」は、自宅の電気はもちろん、新たに電気自動車やPHVとも組み合わせられるようになりました。太陽光からうまれた電気を使うことで、電気自動車はソーラーカーとして生まれ変わります。

複雑に変化する電力需要を、気象情報・ビッグデータ・AIを駆使して予測します！

社名：(一財)日本気象協会

製品名：電力需要予測

過去の電力需要の特徴を、社会条件・気象条件等の変動要因に基づき解析。気象予測スペシャリストの技術と人工知能を融合させ、日々の電力需要を高精度に予測します。また、変動する再生可能エネルギーの予測技術を電力需要予測に融合し、予測精度の向上を図ります。



報道関係者各位 <取材のご案内>

▶ **経済産業省 近畿経済産業局 関西スマートエネルギーイニシアティブ
スマートエネルギー推進セミナー<防災×エネルギー>を開催!**

日時:2018年9月26日(水)15:30~17:00(15:00より受付開始)
場所:インテックス大阪 5号館展示会場内 セミナー会場
主催:経済産業省 近畿経済産業局



(1) 基調講演

- 「事前復興計画ー人口減少時代の新しい防災ー」
牧 紀男 氏(京都大学 防災研究所 副所長/社会防災研究部門長 教授)

(2) 防災×エネルギーに関する技術・製品等紹介

- 事例紹介1「環境・防災に配慮したBCPエネルギーシステムの構築」
伊藤 泰夫 氏(富士電機株式会社 営業本部 社会ソリューション第1統括部 課長)
- 事例紹介2「非常用ガスタービン発電設備の製品特性と震災時の稼働状況」
吉田 武志 氏(株式会社カワサキマシシステムズ ガスタービン統括本部 営業本部 営業技術部 部長)
- 事例紹介3「エイワットが考えるエネルギー自立型防災拠点」
柴田 政明 氏(株式会社エイワット 代表取締役)
- 事例紹介4「阪神機器の取組みと燃料電池ユニットの開発」
黄 勝義 氏(阪神機器株式会社 取締役 電気機器製造部長)

▶ **展示会 開催概要**

展示会名	総称:第6回 スマートエネルギーWeek 第6回[関西]太陽電池展 ~[関西]PV EXPO~ 第6回[関西]太陽光発電システム施工展 第5回[関西]二次電池展 ~バッテリー 大阪~ 第5回[関西]スマートグリッド EXPO 第3回[関西]水素・燃料電池展 ~[関西]FC EXPO~ 第3回[関西]バイオマス発電展 第2回[関西]風力発電展 ~[関西]WIND EXPO~ 第2回[関西]火力発電 EXPO	
会 期	2018年9月26日(水)~28日(金)10:00~18:00(最終日は17:00)	
会 場	インテックス大阪(大阪府大阪市住之江区南港北1-5-102)	
WEBサイト	https://www.wsew.jp/	
出展社数/来場者数	360社 / 20,000名(予定)	
入場料	5,000円/人(招待券申込みで入場無料)	
同時開催展	第2回[関西]住宅・ビル・施設Week	

* 出展社数、国数は見込み数字であり、開催時には増減の可能性があります。

▶ **展示会取材のご案内**

本展への取材をご検討中の方は、下記の専用フォームよりご登録ください。

報道陣向け専用フォーム: <http://www.wsew.jp/kansai/shuzai/>

【問合せ先】 リード エグジビション ジャパン(株)展示会事務局 広報担当:金美和
E-mail: wsew-press@reedexpo.co.jp TEL: 03-3349-8576